

現場でできる下層土の透水性診断法

①らせん穴掘り機（例：浅香工業、SD-75）で、直径7.5cm、深さ40cmの穴を掘る。



②地表面と同じ高さになるまで穴に注水する。

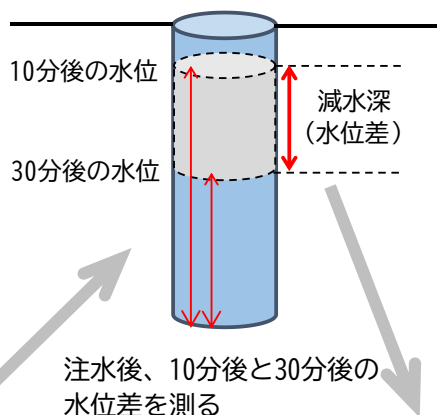


③注水が完了して、10分後と30分後の水位を計測し、10分後と30分後の水位差を減水深（簡易法の測定値）とする。



図1 簡易透水性診断の手順

注）長野県野菜花き試験場技術情報（平30）参照



注水後、10分後と30分後の水位差を測る

表1 診断基準

簡易透水性 診断法による 減水深(cm)	透水性の目安
8以上	透水過多
6～8	良
4～6	良～やや不良
2～4	やや不良
2未満	不良

開発のねらい

畑作物や果樹は全般的に湿害を受けやすく、圃場の排水性の良否が生育を左右します。特に、水田転換畑は排水が悪い場合が多く、作付け前に下層土の透水性を把握し、必要な排水対策を実施することが重要です。そこで、現場でもできる簡易な診断法を元に、本県独自の診断基準を作成しました。

新技術の概要

- らせん穴掘り機を用いて簡易に測定できる下層土の減水深（図1）は、室内で測定する慣行法と相関があることから、現場で有効に活用できます。
- 簡易透水性診断法による透水性の診断基準と目安を作成しました（表1）。

活用場面

診断基準は、水田転換畑や樹園地の下層土（深さ40cm付近）の透水性の目安として活用できます。

簡易診断により減水深が4cm未満（「やや不良」又は「不良」）と診断された場合は、暗きょ等による排水対策を実施します。